

新春  
あいさつ

# 信頼で世界をつなぐ



昨年8月、ウガンダにて。難民支援の現場である稲作研修の農場で種まきを実施

明けましておめでとうございます。

JICAは昨年7月に「信頼で世界をつなぐ」という新ビジョンを掲げました。それまでのビジョン「すべての人々が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」を制定してから9年が経ったことや、2015年に新しい開発協力大綱が制定されたこと、さらに世界も変容していることから、この機に新たに定めた方が良く考えました。

新たなビジョンを考えるに当たり、改めて開発協力大綱を読み解いてみました。その結果、JICAとして焦点を当てるべきは、やはり「人間の安全保障」と「質の高い成長」の2つだという考えに至り、それらの実現を組織のミッションとして決めました。

そのミッションを達成するためのキーワードは“信頼”です。日本の政府開発援助（ODA）が海外の方々から評価されている理由は、常に相手の立場になって共に考える姿勢にあるのだと思います。開発途上国に対して、上から目線や押し付けではなく、常に対等なパートナーとして臨み、相手の立場に立って、そのオーナーシップを尊重しています。

日本の経験が豊富な分野、例えば災害復興支援でも、「日本はさまざまな災害に遭っているが、常に復興に成功しているわけではない。失敗もたくさんしている。その失敗と教訓を共有したい」と語り掛ける。そうした姿勢が途上国の信頼を呼んでいるものと思います。日本らしさ、JICAらしさは何かと考えたときに、この信頼関係こそが大事であると考え、これをキーワードに据えました。

JICAは、「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、国内外の幅広いパートナーと手を携えて、<sup>う</sup>倦まず<sup>たゆ</sup>弛まず国際協力を進めてまいります。



JICA理事長  
北岡 伸一